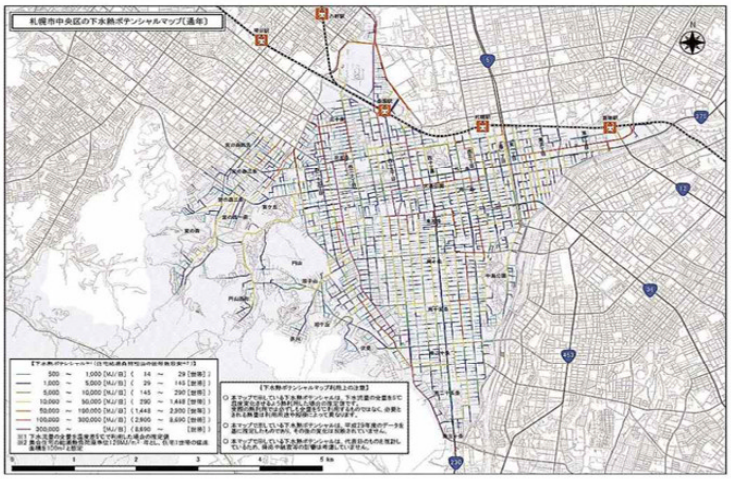
NIE

年　組　名前

道新でワークシート

下水熱活用増へマップ

市作成　中央区対象　HPで公開



札幌市は、下水管から発生する「下水熱」のエネルギー量を市中心部の地図上に示した「下水熱ポテンシャルマップ」を初めて作成し、市のホームページ（HP）で公開している。民間事業者に冷暖房や給湯などの熱源として活用してもらう狙い。

マップは創成川、伏古川、豊平川、新川の四つの処理区ごとに作成し、下水熱のエネルギー量が最も多いピンク色から、最少の水色まで7段階に色分けした。ピンク色の下水管の熱エネルギーを給湯に活用した場合、1日当たり約8700世帯分をまかなえるとしている。

市によると、下水管を流れる下水の水温は年間を通じて15～25度ほど。外気温と比べて冬は暖かく、夏は冷たいのが特長だ。下水管に設置した熱交換器などで熱エネルギーを取り出し、冷暖房や給湯、融雪などに活用することで、既存の熱源利用の設備より省エネが期待できるとする。

市は下水熱の利用促進に取り組むため、昨年10月、民間が下水管を利用できる制度を創設。市下水道河川局は「今後はパンフレットなども作成し、広くPRしたい」と話す。下水熱を利用する場合は、下水道管の使用料が必要で、詳細は市HPで紹介している。

（平岡伸志）

市のHPに掲載されている「下水熱ポテンシャルマップ」

２０２０年４月08日（水）　朝刊　札幌市内　１６P

①下水の水温についての特長を、本文の言葉を使い３５字程度で書きなさい。

																		20
																		40

②下水熱を活用してできることを本文中から３つさがし書き抜きなさい。

③問２の３つにより期待できることは何ですか。３字で書き抜きなさい。